テ

子 登方姥女

武俊健

坂藪小藪

雄太太克

倉

朗郎徳

玉 シ

ワ

キ

森

常

好

小 大鼓 鼓

森安

澤福

勇 光

司雄

白

頭

キッ

V

梅舘

村田

昌善

功博

若山

松本

隆俊

則

シ

テ

Щ

内

崇

生

昆

布

売

宝

生

月

成三十

年

月

+

午 能 後日

楽一へ

堂始

時日

宝

後見 金宝

金本山 井 則泰

賢秀太 郎

頭 大 手取胴鼓 先 曽 脇 住和住 駒良 正 太

辰野高東 巳月橋川 憲尚 彦

郎聡正史

笛 曾

。つくて昆

゙ゕ゙

`っで目

充博匡郎 彦

東今武金

川井田井 光泰孝雄 夫行史資

隆 之 かて舞最儀泰いのす初ぜ立っ 他途台初礼平う三゜ に中のにの

どりし 、とた

。 会らて翁 **能** 

はで上正伝国部三払時るあは金 無シで面統土構がいや儀つ特」いテ面にを安成舞の、式た別 

三番露のれで ̄ー

こといいまに翁な今のそ まま すう翁礼まうす「のど日一も な帰をす古。鈴舞でで番そ

`のは段狂わ年初は

幾言り翁農天一言れ頭に五

つつ、が耕下と方まの演番

目 0) 解 。来翁の、舞は最も

三番三 山 本

満

次

秀和 祥英

謡

森生

山 本 則

俊

若

松

は昆しら昆ろって太は用

逆布 、太布へ太い刀あが狂

転売そ刀売や刀まをいあ言

しののをでつ持す持につっ

ちつ昆れのえをがらでう

両ま布で国で捕悪ずすり

『々小るえと自

立器しな浜とて思分今

者り売嫌・いまい

場はかがのこ

の武

て手瞬持して

十

五

分

をへ能

キ 工 藤 和 哉

小 大

鼓鼓

幸内

信輝

吾 幸

笛

Ш

弘

之

すの出部夢とす式とをき花都

現美乗さのろけな眺上っ

の和れしつら愛で、おめつ東

東北」(とうぼく) 東北」(とうぼく) 東北」(とうぼく) 東北院の僧は東北 で、その梅の名を で、その梅は和泉式部の で、その梅は和泉式部の で、その梅は和泉式部の で、その梅は和泉式部の が宮廷女性の姿と た「軒端の梅」 で、その梅は和泉式部の がって消え失せます。 それ、東北院の僧は東北

てを懐なそ部 部住し和北 消舞かつののだでいい泉院

えつした夜霊とはが女式に

失てく和ので教なあ性部で

ま元い式のるま、た声聞の

`思泉僧あえくつがと梅

住しがに名。部こ掛

田

北

ワ

V 御則 厨久 誠英 吾 志

キッ

山 本 泰 太

謡 佐小小亀 野倉林井

伸 二晋雄 登郎也二

前亀

田井

尚保

廣雄

地

十

五

分

朝三高小 倉川橋倉

敏

俊 淳 樹雄章克

槻三 宅島 元 太 聡郎

太鼓

藤當小大 井山林坪 与 喜

雅孝志美 之道郎雄

後見

佐中

由太

於郎

地

謡

高水和澤

橋上久田

亘優郎司

荘

太宏

終演予

定

午

後五

時四十五

分

頃

大野村

右 次 成三十 Ħ 頭木 近 年 月 前 予 午子  $\mathbf{H}$ 後日 尚

> 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

ま常てががにいをれの夫武に舞 すの去姿現妙に気る塩婦ご追台能 赤つをれな天丈と焼は天わは一 頭で現舞る皇に天き事皇れ吉国が行しを音一追皇と情一、野栖 白き、舞楽行いを根を行山山 頭ま天いとが返船芹聞の中 にす皇ま芳感しのをき前に時頭 をすし心ま陰提、に分は わ小励 り書ま舞香 位は将後がか夫、す天つた乱 来、満に婦追。皇て浄 重後を蔵ち過の手追の現御大 くシ祝王てご振の手たれ原友 なテ福権天する二がめたへ皇

りのし現女内舞人現鮎老天子

隠し腹に入申く

。いしずに供空船け壬? きしのり静老しまの乗つのず

告 冝

時日